

第5次八戸市総合計画後期推進計画策定委員会
第2回「地域活力の創出プロジェクト部会」 議事概要

日 時：平成22年7月2日（金）13:00～15:00
場 所：八戸市公会堂文化ホール 2階 会議室1

出席者：委員4名（大谷真樹部会長、大野晴治委員、栴沢孝子委員、佐々木伸夫委員）

事務局：政策推進課（八木澤主査）、EX都市研究所（佐久嶋研究員）

庁内検討ワーキングチーム関係11課（南郷区役所企画総務課、農林建設課、観光課、商工政策課、産業振興課、雇用支援対策課、農政課、農業振興課、農業交流研修センター、中央卸売市場、水産振興課）

要 旨：第5次八戸市総合計画後期推進計画の戦略プロジェクト1次案について、素案からの変更点等を確認しながら、その内容について検討した。

結果として、1次案の方向性は概ね委員会の了解を得たが、一部、整理の必要な施策や追加を検討すべき新たな事業等について意見が出された。

内 容：

1 開会

2 部会長あいさつ

3 審議案件

①戦略プロジェクトの1次案について（部会資料5）

・事務局から資料を説明後、プロジェクト毎に、後期推進計画の1次案を検討した。

<1-1. 企業誘致推進・中小企業強化プロジェクト>

- ・アントレプレナーは経営基盤のカテゴリーではないと思う。1-6雇用創出プロジェクトに入ってくるのではないか。前回の戦略プロでも、雇用を確保するには会社を作るしかないという話があったと思う。
- ・1-5産学官民連携プロジェクトの起業支援という考え方もある。
- ・働き場の創出の文言があるが、つまり会社をつくるということだから、雇用創出だと思ふ。アントレプレナーは経営基盤を固めるためなのか、雇用を創出するためなのかというところが重要になる。雇用創出のカテゴリーに入ったら、雇用の創出が目的になる。
- ・1-5に入れるのがいいと思う。NPOがソーシャルビジネスを生み出すことにもなる。ところで、事業主体は市だけなのか。
→事業主体は市だけである。市が商工会議所に委託する。
- ・一人で起業するひともいる。起業支援で発展していくと雇用創出につながる。
→アントレプレナー情報ステーション事業については、1-5.産学官民連携プロジェクト、または、1-6.雇用創出プロジェクトへ掲載することで担当課と協

議したい。

- ・ 港について。八戸港の機能強化だが、ここでいう八戸港はどこを示しているのか。漁港を含めてだと、管轄が違うと思う。それとも全体を総じて八戸港としているのか。
→商港、工業港の部分。漁港は水産の方になるのでここでは含んでいない。
- ・ 3ページの港湾整備事業には、臨港道路整備、岸壁も入るのではないかと。
→6ヶ年の計画の中で臨港道路の整備計画等があるかどうかを確認し、あれば追加したい。
- ・ 1-1の施策1の誘致企業・地元企業情報収集事業では、高度技術産業を対象にしている。企業誘致セミナー開催事業でも、高度技術産業にしばって実施するのか。
→セミナーでは、特に分野をしばっているというわけではない。

<1-2. 攻めの農業プロジェクト>

- ・ 八戸は畜産、飼料基地としてもすごいと聞いている。そうすると、口蹄疫などリスクも絡んでくるので、伝染病の予防も重要になってくる。産地化の推進の中で、対策が必要ではないかと。
→県の家畜衛生保健所で対策をすることになる。市はその指導を受けて動くことになる。口蹄疫のマニュアルは見直しをしていると聞いている。
- ・ 八戸の飼料基地は全国で3番目の規模である。畜産は冷涼な気候が適している。今回の口蹄疫のようなことがあると、ますます八戸の重要性が高まるのではないかとと思う。
- ・ 公共建築物への地元材の導入は、1-1の地場産品の販路拡大にもつながる。

<1-3. 攻めの水産業プロジェクト>

- ・ ブランドについて1-1の販路拡大の施策にまとめられたが、水産のブランドについても統合されたのか。
→イカ・サバのブランド化など、農業、水産で取組むこととして残しているものもある。

<1-4. 八戸ツーリズムプロジェクト>

- ・ 市長マニフェストにもあったが、コンベンション事業は団体客も多く、波及効果もすごいと思う。コンベンションに参加する団体へ八戸の観光PRを行うこともでき、観光戦略の目玉になると思う。コンベンション誘致のための組織づくりを市で取り組むべきだと思う。他都市との競争になると思うが、現在は競争に参加していない状況。
- ・ 八戸の場合には、会場がないといわれている。そこで、屋内スケートリンクを建設するならば、夏季にコンベンション会場として使用できる施設にしてほしい。宿泊が古牧温泉などになってしまうことも課題。
- ・ コンベンションの効果は非常に高い。しかし、現状では、大きいコンベンションを誘致するのは無理で、小さいコンベンションを数多く誘致するということになるだ

ろう

- ・ トータル的な考え方で、意識を高めることが必要であろう。コンベンション誘致の企画書を作ることなどが必要である。
- ・ 最近では、廃墟マニア、工場マニアがいる。屋形船で海から工場を見せたところ感動していた。アニメやオタク系の人々を集めるような仕掛けも考えられるのではないか。
→コンベンション誘致の事業については、持ち帰って前向きに検討したい。

< 1-5. 産学官民連携プロジェクト >

- ・ 連携による質の高い研究事業とあるが、質が高いとはどういうことか。
- ・ 事業主体に市と大学等とあるが、「等」は他に何を含めているのか。
→質が高いとは、専門性の高いという意味で書いたが、削除してもよい。「等」については、八戸工業高等専門学校のことである。
- ・ それならば専門性の高いと書いた方がいいと思う。
- ・ 次に1-5のタイトルだが産学官民を書くと、すべての事業に産学官民全部が関わっているように思える。各種連携プロジェクトではだめなのか。
- ・ 各種連携プロジェクトだと弱い。ぼやっとしていると思う。産学官民と書いた方がわかりやすいのではないかと思う。
- ・ それなら、産学官民のところを太字にするなど強調した方がいいのではないか。
- ・ ここでは、それぞれが連携するとで、必ずしも全部が連携するというわけではないということか。
→産学連携、産学官連携など、施策や事業によって様々な連携があるということになる。
- ・ タイトルについての説明については理解した。
- ・ 産学官民プロジェクトをやめるという選択肢はあるのか。無理やり設けたという印象がある。掲載されている事業についても、産業などほかのプロジェクトに掲載した方がいいのではないか。
→産学官民というのうは、方法論である。それぞれの分野の中にあっただ方が分かりやすいという考えもあるが、4次総合計画ときから、産学官が謳われはじめて特出しした経緯がある。連携については各分野で行われているが、プロジェクトには特出ししたい事業を集めている。1-5産学官民連携、1-6雇用創出のプロジェクトは、1-1~1-4と少し違うもので、他都市でもあまりないと思うが、特に必要と考えてプロジェクトとしている。
- ・ 20万都市の中で、高等教育機関が3つある都市あまりない。産学官民を特出ししたことは、八戸らしくよいと思う。雇用創出も特出しに値する項目で違和感はない。
- ・ 私たちは、大学の先生のような質の高い研究はできないが、市民の底辺の意見を吸い上げて、大学と連携して取組めたらうれしい。
- ・ 産学官共同研究開発支援事業などは1-1の中でも一度でている。どこでも連携は行っていかなければならないという見方もある。
→大学資源は八戸の中で貴重ということで、それを出していきたいというのがある。

各分野に落としこめないものもある。

- 例えば、産業以外のところに入れることができるものもある。戦プロ全体に広げると、ここに掲載されている事業はバラせると思う。大学が多いことが強みだが、強みと機会を結び付けないと活かすことはできない。強みだけをここでまとめても意味がない。
- ここの場も、産学官民連携のひとつのケースだと思っている。それが大きいか、小さいかということだと思う。
- 産学官民連携は手段であり、すべてのものに共通するものだと思う。
- 学生地域貢献表彰制度、八戸市民大学講座、出前講座（地元企業ファンづくりプロジェクト）は、産学官民連携ではなく、教育関連のプロジェクトが適切ではないか。
→前期推進計画では、1-5には施策は1つで産業分野の連携のみだったが、八戸市都市研究検討会事業などまちづくりにも広げ施策2を追加したもの。八戸都市研究検討会事業を施策1に持ってきて、施策を1つに整理するという方法もあると思う。それ以外の施策2に掲載されている事業は、それぞれの分野に置くこともできるかと思う。地元企業ファンづくりプロジェクトはもともと1-1にあったもので、戻すこともできる。企業の社会的な意味合いもあり、これは八戸独自の取組であるので、どこかには入れたい。事業概要の出前講座とは、企業から学校に派遣するというものである。
- 今の話だと、地元企業ファンづくりプロジェクトは、3-1のさわやか八戸グッジョブ・ウィーク推進事業に似かよったものである。産学官民ではないと思う。
- 学生地域貢献表彰制度と地元企業ファンづくりプロジェクトは、3-1の教育分野が適切ではないか。
→市民大学講座と学生地域貢献表彰制度は、市長マニフェストを受けていたものである。学生地域貢献表彰制度は、3-1教育環境の整備もあるので、そちらに移すという考え方もある。一方、市長マニフェストだからと言って、必ず戦略プロジェクトに入れる必要もないので、分野別計画の中で整理することもできる。
- 市民大学講座はずっと行っている事業であるなら、あえてとりあげる必要もない。また、当部会で検討することがどうなのかとも思う。
- 地元企業ファンづくりプロジェクトは、21ページ（3-1）に入れた方がよい。
→地元企業ファンづくりプロジェクトについては、担当課からは産業部門であるとの意見がある。担当課とも協議したい。
- 産学官民連携プロジェクトについて、どうしても必要なのか考えてしまう。戦略プロジェクトは何なのかと考えると、これが優先的にするものなのかとってしまう。
- 部会の意見としては、産学官民連携プロジェクトは施策2をやめて、八戸都市研究検討会事業を施策1に移す。それ以外の施策2の掲載事業については、教育などそれぞれの分野に掲載する。地元企業ファンづくりプロジェクトを地域活力の創出プロジェクト群に掲載するとすれば、活力創出の部分を強く出す必要がある。市民大学講座については、戦プロ事業としなくてもいいのではないか。

< 1-6. 雇用創出プロジェクト >

- 無料職業紹介事業はハローワークとどう違うのか。
→今年の10月開始を目途に整備をすすめており、重点的、しぼった職業紹介をしようと考えている。誘致企業の人材確保や補助事業の条件として新規雇用をする企業の情報など、市の産業振興策に関連するものと考えている。
- サービスの先は、市民ではなく企業ということか。
→両方である。
- これだけ人が働けずにいるため、こういった事業が出てきているのだと思うが、ハローワークでもできるのではないか。あえて市が実施する必要があるのか。
- 無料職業紹介はどのようなイメージで行うのか。
→ハローワークよりきめ細かいものを想定している。ハローワークでは、企業がどういった人材を求めているのかまでは把握しきれないと思う。そういう意味では、我々の方が、企業とのネットワークが強いので、マッチングや紹介を行いやすいと考えている。独自のHPもつくる予定である。
- 無料職業紹介の事業は、10月からサービスを始めるということは、タイトルは変えられないということか。
→無料職業紹介は法律用語をそのままもってきている。事業名については、特に検討したということではない。
- これは平日にやるのか。
→そうなる。役所が開いているときを想定している。
- 予算はいくらぐらいか。
→資料を持ってきていないが、嘱託1名の人件費とHP開設のための費用となる。
- 雇用が生まれる気がしない。無料職業紹介事業は、企業誘致のためという視点の方が分かりやすいのではないか。企業が誘致されれば雇用も増える。
- 人手が足りないところに人が入っていないという現状がある。八戸市雇用創出戦略ビジョンについて、医療・福祉、環境・農水産業など分野でビジョンを策定することだが、人手が足りないところにうまく人が入っていけるようなものにしてほしい。
→その通りにしたい。
- 電子ブックなどの普及に伴い、オーサリング（文字や画像、音声、動画といったデータを編集して一本のソフトウェアを作ること）を地方でできないかという話も多い。
- 雇用創出プロジェクトの事業概要について、曖昧さをなくして、わかりやすく記載してほしい。